

鳥海柵を知る

—町民大学2013シンポジウムより—

金ヶ崎の国指定史跡



大鳥井山遺跡の二重の土塁と堀（横手市教育委員会提供）

後三年の最後の決戦地は金沢柵。記録には沼と違つて壁が建つておるという表現がされており、断崖絶壁の場所とい

後三年の最後の決戦地は金沢柵。記録には沼と違つて壁が建つておるという表現がされており、断崖絶壁の場所とい

戰の地では源氏側が2万騎の軍勢を金沢柵に派遣したといふ記録があるのです非常に多くの兵を集めめたことが分かる。

われている。

奥州平泉文化の源流

□「後三年」の決戦地

沼柵の段階では数千騎だった。しかし、最終決

金沢柵は、繪巻物を見ると、堀や城、柵が描かれている。切り立った壁

に堀をめぐらせていて、その境目には柵がある。

金沢柵の場所はまだよく分からぬが、同じ横手市に大鳥井山遺跡とい

う遺跡がある。まさに繪巻物にあるような遺構が見つかっており、ここは鳥海柵より一足早く10

（平成22）年に国史跡の指定となつた。大鳥井山を見ていたければ、金沢柵をイメージできるのではないかと思う。

肝心の金沢柵がどこなのか、結論は出ていない。中世の城跡である金沢城跡というのがあり、その中にあるのではない。現在発掘調査を進めている。

後三年合戦を経て、最

□対比から交流へ

だ範囲は、南は福島県の白河の関から青森県の端まで、1万余りの村々に拡大していった。

清衡は、ご存じの通り、中尊寺金色堂を建て、その建立趣旨が記録に残されている。

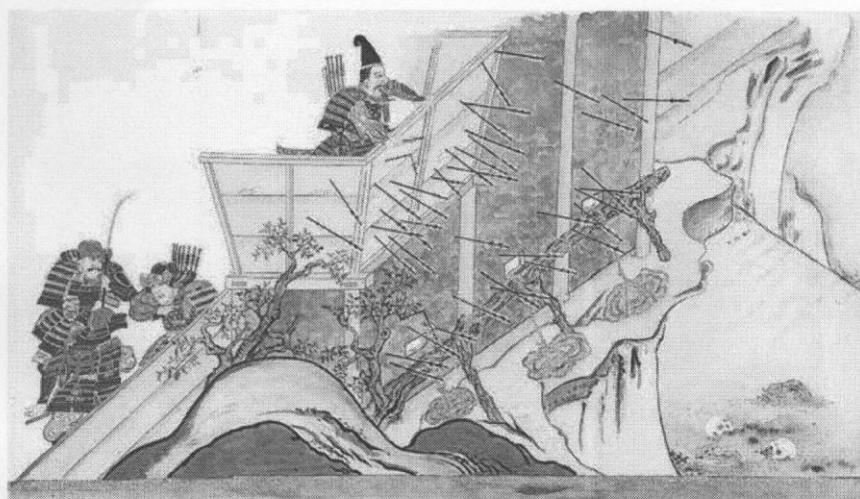
岩手県内には「安倍館」という地名が多くある。一方、秋田県内には400以上「○○館」という地名があるが、「清原館」というのは一つもない。

逆に、秋田県であります「あんばいだて」とか

胆江日日新聞 2014年(平成26年)6月15日(日曜日)掲載記事

高橋 学氏（秋田県埋蔵文化財センター主任文化財専門員）

安倍氏から清原氏・藤原氏へ（下）



戒谷南山筆「後三年合戦絵詞」から金沢柵「千任の口いくさ」の場面（横手市教育委員会提供）

負けた方の清原の関係で唯一生き残つたのが清衡。清衡が31歳か32歳のころになる。

この戦いの後、清衡は本拠地を現在奥州市である江刺郡の豊田に移して、かつて安倍・清原が支配していた岩手県南部と秋田県横手地方を引き継いで支配していく。

清衡が平泉に拠点を移すのが50歳前後なので、その間20年近い歳月がある。それぐらいの時間をかけて岩手・秋田の支配権を固めて、中央に認められようになつた。平泉に移つた後は、清原から父方の藤原に姓を戻した。平泉に移つた段階で、清衡の支配が及ん

だ。私なりの考え方述べさせていただきたい。安倍氏、清原の人となりを考えることは難しいことだが、一つの取っ掛かりになるのではないかと考えている。

翻つて、平泉をさかのぼって考えていくと、平泉の源流というのは後三年合戦にあって、さらにさかのぼつて前九年合戦にあつて、さらにより鳥海柵があるのだといふことを地元の方々にはより強くご理解いただ

きたい。

鳥海柵、前九年合戦関係の地元のみなさんには、対比となる後三年合戦と清衡のことも知つていただきたい。いろんな形で見て対比していただけたらと思う。あるいは県、市、町の枠を超えた交流というのが、鳥海柵の活用につなげるためにも必要になつてくるのではないかだろうか。